

漢文 句形これだけ100

解答・決め手

答えより、**決め手の一行**を覚えてください。

丸つけのしかた 答えが合っていても、決め手が言えなければ×にしてください。

- ① まず読む順番を決める 返り点（レ点・一二点・上中下点）で、どの字から読むかを確定させる。
- ② 読まない字を外す 置き字（而・於・于・乎・焉・矣）は読まない。ここで形が見えてきます。
- ③ 句形の型に当てはめる 否定・疑問・反語・使役・受身・比較・限定。型を知っていれば訳は決まります。

訓読返り点 次の漢文を読む順序（先に読む字から）として正しいものを、後のア～ウから選べ。

1	再読文字の説明として正しいものを選べ。 ア 一字を二度読む字（未・将・当など） / イ 読まない字 / ウ 韻を踏む字	ア	再読文字は、一字を二度読む。
2	上中下点の働きとして正しいものを選べ。 ア すぐ下の一字から返る / イ 一二点をはさんで、さらに上へ返るときに使う / ウ 詩の韻をそろえる	イ	上中下点は、一二点を間にはさんで、さらに大きく返るときに使う符号。
3	レ点の働きとして正しいものを選べ。 ア 二字以上を隔てて下から上へ返る / イ 句の終わりで読むのをやめる / ウ すぐ下の一字を先に読み、上の一字へ返る	ウ	レ点は、すぐ下の一字を先に読んでから上の字へ返る符号。
4	欲スレ登ラント二高山ニ一 ア 高→山→登→欲 / イ 欲→登→高→山 / ウ 欲→登→山→高	ア	返り点に従うと「高→山→登→欲」の順。
5	欲スレ登ラント二高山ニ一 次の漢文に使われている返り点の種類を、後のア～ウから選べ。 ア レ点（すぐ下の一字から上へ返る） / イ レ点と一二点の組み合わせ / ウ 一二点（二字以上を隔てて返る）	イ	この文はレ点と一二点の組み合わせ。
6	置き字の説明として正しいものを選べ。 ア 二度読む字 / イ 必ず文頭に来る字 / ウ 書いてあるが読まない字（而・於・矣など）	ウ	置き字は、書かれているが書き下しでは読まない字。
7	欲スレ問ハント二師友ニ一 ア 師→友→問→欲 / イ 欲→問→師→友 / ウ 欲→問→友→師	ア	返り点に従うと「師→友→問→欲」の順。
8	欲スレ問ハント二師友ニ一 次の漢文に使われている返り点の種類を、後のア～ウから選べ。 ア レ点（すぐ下の一字から上へ返る） / イ レ点と一二点の組み合わせ / ウ 一二点（二字以上を隔てて返る）	イ	この文はレ点と一二点の組み合わせ。

9	返り点を書く位置として正しいものを選び。 ア 漢字の右上 / イ 漢字の真上 / ウ 漢字の左下	ウ	返り点は漢字の左下に小さく書く。
10	「不」「無」「非」に共通する意味はどれか。 ア 打ち消し（～ない） / イ 疑問（～か） / ウ 使役（～させる）	ア	不・無・非はいずれも打ち消しを表す。

置き字 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

11	学ビテ而不レバレ思ハ則チ罔シ。 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。 ア 学びて思はざれば則ち罔し / イ 学を思へば則ち罔し / ウ 思ひて学ばざれば則ち罔し	ア	論語。「而」は接続の置き字。
12	千里ノ行モ、始マル二於足下ヨリ一。 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。 ア 千里を足で測る / イ 千里の旅も足もとから始まる / ウ 千里の道で足を止める	イ	老子。「於」は起点・場所＝「より／に」。
13	力ハ抜キレ山ヲ<u>兮</u>氣ハ蓋フレ世ヲ。 ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える） / イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す） / ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）	ウ	項羽「垓下歌」。傍線部「兮」は詩の調子を整える置き字。
14	温タタメテレ故キヲ<u>而</u>知ルレ新シキヲ。 ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える） / イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す） / ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）	ア	「而」は接続の置き字。前に「て」を添える。
15	霜葉ハ紅ナリ二<u>於</u>花ヨリモ一。 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。 ア 場所・対象（～に・～で・～を） / イ 比較（～より） / ウ 受身（～に…られる）	イ	「於」は比較。形容（動）詞の後で「～より」。

16	霜葉ハ紅ナリニ於二月ノ花ヨリモ一。 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。 ア 霜の葉は二月の花の中で赤い / イ 霜の葉は二月の花に染められる / ウ 霜にあった葉は二月の花よりも赤い	ウ	杜牧「山行」。「於」は比較＝「より」。
17	良藥ハ苦ケレドモレ口ニ而利アリニ於病ニ一。 ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える） / イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す） / ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）	ア	傍線部「而」は接続（逆接）の置き字。
18	苛政ハ猛ナリニ於虎ヨリモ一。 ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える） / イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す） / ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）	イ	「於」は前置詞の置き字。

再読文字 次の漢文の書き下し文として正しいものを選べ。

19	過ギタルハ猶ホレ不ルガレ及バ。 次の漢文の傍線部「猶」の意味として正しいものを選べ。 ア ちょうど…のようだ / イ まだ…ない / ウ 当然…すべきだ / エ どうして…しないのか	ア	「過ぎたるは猶ほ及ばざるがごとし」。
20	当ニレ雪グレ恥ヲ。 傍線部「当」の一度目の読みを、ひらがなで書いたものを選べ。 ア すべからく / イ まさに / ウ よろしく	イ	「当」は一度目「まさに」、二度目「ベシ」。
21	須ラクレ惜シムレ陰ヲ。 ア 須らく陰を惜しまんとす / イ 須らく陰を惜しまず / ウ 須らく陰を惜しむべし	ウ	「須」は「すべからく…ベシ」。
22	人須ラクレ立ツレ志ヲ。 次の漢文の傍線部「須」の意味として正しいものを選べ。 ア …するのがよい / イ まだ…ない / ウ ちょうど…のようだ / エ ぜひ…する必要がある	エ	「人須らく志を立つべし」。
23	盍ゾ二各々言ハ一。	ア	「盍」は「なんゾ…ざル」。

ア 盍ぞ各々言はざる / イ 盍ぞ各々言ふべし / ウ 盍ぞ各々言はんとす		
24 故郷<u>応</u>ニレ知ル。 次の漢文の傍線部「<u>応</u>」の意味として正しいものを選び。 ア まだ…ない / イ きっと…だろう / ウ ぜひ…する必要がある / エ どうして…しないのか	イ	「故郷 <u>応</u> に知るべし」。「 <u>応</u> 」は「きっと…だろう」。
25 <u>盍</u>ゾ二反リテ求メー。 傍線部「<u>盍</u>」の一度目の読みを、ひらがなで書いたものを選び。 ア まさに / イ なほ / ウ なんぞ	ウ	「 <u>盍</u> 」は一度目「なんゾ」、二度目「ざル」。
26 <u>宜</u>シクレ退ク。 次の漢文の傍線部「<u>宜</u>」の意味として正しいものを選び。 ア ぜひ…する必要がある / イ 今にも…しようとする / ウ まだ…ない / エ …するのがよい	エ	「 <u>宜</u> 」は「よろしく…ベシ」。
27 当ニレ立ツレ身ヲ。 ア 当に身を立つべし / イ 当に身を立てんとす / ウ 当に身を立てず	ア	「 <u>当</u> 」は「まさニ…ベシ」。
28 未ダレ来タラ。 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを選び。 ア 今にも来ようとしている / イ まだ来ていない / ウ 来るにちがいない	イ	「未だ来たらず」。「未」は「まだ…ない」。
29 宜シクレ従フレ衆ニ。 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを選び。 ア ぜひみなに従う必要がある / イ 今にもみなに従おうとする / ウ みなに従うのがよい	ウ	「 <u>宜</u> しく衆に従ふべし」。
30 <u>応</u>ニレ咲ク。 次の漢文の傍線部「<u>応</u>」の意味として正しいものを選び。 ア まだ…ない / イ どうして…しないのか / ウ ぜひ…する必要がある / エ きっと…だろう	エ	「 <u>応</u> 」は「まさニ…ベシ」。

重要助字 傍線部「為」の用法として正しいものを、後のア～エから選べ。

- | | |
|---|---------------------------|
| <p>31 <u>以</u>テ二其ノ智ヲ一解ク
傍線部「<u>以</u>」の用法として正しいものを、後のア～ウから選べ。</p> | <p>ア 「以」は手段・方法の「もって」。</p> |
|---|---------------------------|

	ア 手段・方法の「もって」 / イ 原因・理由の「～によって」 / ウ 「以為（おもへらく）」＝思うことには	
32	為ル二人ノ<u>所</u>一レ殺ス。 傍線部「所」の用法として正しいものを、後のア～ウから選べ。 ア 「～するところ（もの・こと）」 イ 受身「～される」（為～所） ウ 理由・わけ「ゆゑん」（所以）	「所」は受身「～される」（為～所）。
33	為ル二敵ノ<u>所</u>一レ破ル。 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。 ア 人に殺される / イ 君子の徳 / ウ 敵に破られる	傍線部「為」は受身「る・らる」（為～所）。
34	<u>為</u>ル二人ノ<u>所</u>一レ笑フ。 ア 動詞「なす・つくる・治む」 / イ 断定の「たり」 / ウ 「ために」（目的・利益） / エ 受身「る・らる」（為～所）	「為」は受身「る・らる」（為～所）。
35	<u>為</u>ル二之ガ名ヲ一。 ア 動詞「なす・つくる・治む」 / イ 断定の「たり」 / ウ 「ために」（目的・利益） / エ 受身「る・らる」（為～所）	「為」は動詞「なす・つくる・治む」。
36	為ル二世ノ<u>所</u>一レ用キル。 傍線部「所」の用法として正しいものを、後のア～ウから選べ。 ア 「～するところ（もの・こと）」 イ 受身「～される」（為～所） ウ 理由・わけ「ゆゑん」（所以）	「所」は受身「～される」（為～所）。
37	善ク為ムレ国ヲ 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。 ア 病気を理由に辞退する / イ 勇気のある人 / ウ うまく国を治める	傍線部「為」は動詞「なす・つくる・治む」。
38	<u>為</u>ル二敵ノ<u>所</u>一レ破ル。 ア 動詞「なす・つくる・治む」 / イ 断定の「たり」 / ウ 「ために」（目的・利益） / エ 受身「る・らる」（為～所）	「為」は受身「る・らる」（為～所）。
39	与フ二之ニ金ヲ一 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。 ア 之に金を与ふ / イ 徳を以て治む / ウ 学ぶ者	傍線部「与」は動詞「与ふ（あたえる）」。

40	為ル二人ノ所一レ笑フ。 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。 ア 世の用ゐる所と為る / イ 人の笑ふ所と為る / ウ 之を知る	イ	傍線部「為」は受身「る・らる」（為～所）。
----	--	---	-----------------------

否定疑問反語

次の漢文の現代語訳として最も適切なものを選び。

41	其ノ人、 <u>無</u> シレ憚ルコトレ改ムルニ。 傍線部「無」の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで書いたものを選び。 ア なし / イ なかれ / ウ ず	ア	ここの「無」は存在の打消で「なし」。書き下し「その人、改むるに憚ること無し」。禁止「なかれ」なら命令の文脈になる。
42	何ゾ怨ミンレ天ヲ乎や。 次の漢文の書き下し文として正しいものを選び。 ア 何ぞ天を怨む / イ 天を怨むこと何ぞ / ウ 何ぞ天を怨みんや	ウ	文末「んや」は反語。訳「どうして天を怨もうか、いや怨まない」。
43	安クンゾ奪ハン二其ノ志ヲ一哉や。 ア どこでその志を奪うのか / イ どうしてその志を奪えようか、いや奪えない / ウ その志を奪ってしまった	イ	「安くんぞ…んや」は反語。
44	安クンゾ能ク為サンレ之ヲ哉や。 次の漢文の句法を、後のア～エから選び。 ア 否定 / イ 二重否定 / ウ 疑問 / エ 反語	エ	書き下し「安くんぞ能く之を為さんや」。
45	子ハ安クンゾ知ルレ之ヲ。 ア あなたはどうしてこれを知っているのか / イ あなたはどうしてこれを知ろうか、いや知らない / ウ あなたはどこでこれを知ったのか	ア	書き下し「子は安くんぞ之を知る」。
46	豈ニ忘レンレ之ヲ哉や。 ア これを忘れてしまった / イ これを忘れるだろうか / ウ どうしてこれを忘れようか、いや忘れない	ウ	文頭「豈」＋文末「んや」は反語。
47	燕雀安クンゾ知ラン二鴻鵠ノ志ヲ一哉や。 ア 小さな鳥はどこで大きな鳥の志を知るのか / イ 小さな鳥にどうして大きな鳥の志がわかろうか、いやわからない / ウ 小さな鳥も大きな鳥の志を知っている	イ	「安くんぞ…んや」は反語。
48	子ハ安クンゾ知ランレ之ヲ哉や。	エ	書き下し「子は安くんぞ之を知らんや」。「ん(む)」があるので反語。「ん」のない単純な疑問文との違いに注意。

次の漢文の句法を、後のア～エから選べ。 ア 否定 / イ 二重否定 / ウ 疑問 / エ 反語		
49 誰カ能ク解カンレ之ヲ。 傍線部「誰」の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで書いたものを選べ。 ア たれか / イ だれぞ / ウ いづれか	ア	「誰（たれか）」は疑問。
50 子ハ楚人ナル乎カ。 ア あなたは楚の国の人ではない / イ あなたは楚の国の人だ / ウ あなたは楚の国の人ですか	ウ	文末「乎（か）」は疑問。
51 安クンゾ知ラン二天命ヲ一哉ヤ。 次の漢文の書き下し文として正しいものを選べ。 ア 安くにか天命を知る / イ 安くんぞ天命を知らんや / ウ 天命を知る安んぞ	イ	「安くんぞ…んや」は反語。
52 王侯将相、寧クンゾ有ランレ種ヲ乎ヤ。 次の漢文の句法を、後のア～エから選べ。 ア 否定 / イ 二重否定 / ウ 疑問 / エ 反語	エ	「寧くんぞ…んや」は反語。
53 豈二人ノ力ナラン哉ヤ。 ア どうして人の力であろうか、いや人の力ではない / イ なんと人の力であることよ / ウ 人の力であるだろうか	ア	文頭「豈」＋文末「んや」は反語。
54 不レ可レ不レ慎マ。 「不可不」の読み方として正しいものを、ア～ウから選べ。 ア つつしむべからず / イ つつしまずべし / ウ つつしまざるべからず	ウ	「不可不」は「ざるべからず」。

使役受身 次の漢文の句法を、後のア～ウから選べ。

55 令ム二民ヲシテ本ニ務メー。 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを選べ。 ア 民が農業に努めさせられる / イ 民を農業に努めさせる / ウ 民が農業に努める	イ	「令…しむ」は使役。書き下し「民をして本に務めしむ」。
--	---	-----------------------------

56	使ム二民ヲシテ衣食ヲ足ラ一。 次の漢文の書き下し文として正しいものを選び。 ア 民に衣食を足らる / イ 民衣食を足る / ウ 民をして衣食を足らしむ	ウ	「使…しむ」は使役。「民に衣食を足りさせる」。
57	令ム二民ヲシテ力ヲ励マー。 ア 使役（～させる） / イ 受身（～される） / ウ その他	ア	「令…しむ」は使役。書き下し「民をして力を励ましむ」。
58	為ル二小人ノ所一レ欺ク。 ア 使役（～させる） / イ 受身（～される） / ウ その他	イ	「為～所」は受身。書き下し「小人の欺く所と為る」。
59	為ル二権臣ノ所一レ害スル。 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを選び。 ア 権臣を害させる / イ 権臣を害する / ウ 権臣に害される	ウ	「為～所」は受身。書き下し「権臣の害する所と為る」。
60	令ム二民ヲシテ本ニ帰セ一。 ア 使役（～させる） / イ 受身（～される） / ウ その他	ア	「令…しむ」は使役。書き下し「民をして本に帰せしむ」。
61	為ル二讒者ノ所一レ害スル。 ア 使役（～させる） / イ 受身（～される） / ウ その他	イ	「為～所」は受身。書き下し「讒者の害する所と為る」。
62	為ル二人ノ所一レ制スル。 次の漢文の書き下し文として正しいものを選び。 ア 人をして制せしむ / イ 人を制す / ウ 人の制する所と為る	ウ	「為～所」は受身。「人に支配される」。

部分否定 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを選び。

63	言ハ不二必ズシモ尽クサーレ意ヲ。 ア 言葉は決して気持ちを伝えない / イ 言葉が気持ちをすべて伝えるとは限らない / ウ 言葉はまだ気持ちを伝えていない	イ	「不必」の部分否定。書き下し「言は必ずしも意を尽くさず」。
64	言ハ不二必ズシモ尽クサーレ意ヲ。 次の漢文は、部分否定・全部否定のどちらか。 ア 部分否定 / イ 全部否定 / ウ どちらでもない（完全肯定）	ア	否定語「不」が副詞「必」の上なので部分否定。
65	家貧シクシテ不二常ニハ得一レ油ヲ。	ウ	「不常得」は部分否定で「常には得ず」。

	次の漢文の書き下し文として正しいものを選び。 ア 家貧しくして常に油を得ず / イ 家貧しくして油を得ること常ならず / ウ 家貧しくして常には油を得ず	
66	智者モ千慮ニ必ズ有リ二一失一。 次の漢文は、部分否定・全部否定のどちらか。 ア 部分否定 / イ 全部否定 / ウ 単純な否定 / エ どちらでもない（否定語がなく完全肯定）	エ
67	学者ハ未ダ二必ズシモ賢ナラ一。 ア 学者はまだ賢くない / イ 学者だからといって必ずしも賢いとは限らない / ウ 学者はきっと賢くない	イ
68	学者ハ未ダ二必ズシモ賢ナラ一。 次の漢文の書き下し文として正しいものを選び。 ア 学者は未だ必ずしも賢ならず / イ 学者は必ず賢ならず / ウ 学者は未だ賢ならず	ア
69	家貧シクシテ不二常ニハ得一レ油ヲ。 ア 家が貧しくていつも油がない / イ 家が貧しくて決して油を買わない / ウ 家が貧しくていつも油を手に入れられるとは限らない	ウ
70	仁者ハ必ズ有リレ勇。 次の漢文は、部分否定・全部否定のどちらか。 ア 部分否定 / イ 全部否定 / ウ 単純な否定 / エ どちらでもない（否定語がなく完全肯定）	エ

「必有」には否定語（不・未）がないので、部分否定・全部否定の対象外。

「未必」は部分否定で「不必」と同じ訳し方。

「未必」は「未だ必ずしも～ず」と読む部分否定。

否定語「不」が副詞「常」の上なので部分否定。

「必有」に否定語はないので完全肯定「必ず勇有り」。「不必有」（必ずしも有らず＝部分否定）との違いを見比べておこう。

仮定条件 次の漢文の条件の種類を、後のア～ウから選べ。

71	見テレ義ヲ不ザレバレ為サ。 ア 順接仮定（もし～ならば） / イ 逆接（たとえ～でも） / ウ 順 接確定（～ので）	ウ	「為さざれば（已然形+ば）」＝順接確定（恒常 条件）。「義を見て（いつも）行わないので」の 意。出典は論語「義を見て為さざるは、勇無き なり」。
72	死ヲ視ルコト帰スルガゴトシ ト雖モ。 ア 順接仮定（もし～ならば） / イ 逆接（たとえ～でも） / ウ 順 接確定（～ので）	イ	「雖」は「いへども」。書き下し「死を視ること 帰するがごとしと雖も」。
73	若シ用キバ二其ノ言ヲ一。 ア 順接仮定（もし～ならば） / イ 逆接（たとえ～でも） / ウ 順 接確定（～ので）	ア	「若し」は「もし」。書き下し「若し其の言を用 みば」。
74	縦ヒ失フトモ二寸土ヲ一。 次の漢文の現代語訳として最も適切 なものを選べ。 ア もしわずかな土地を失えば / イ わずかな土地を失うので / ウ たとえわずかな土地を失っても	ウ	「縦ひ」は「たとひ」。書き下し「縦ひ寸土を失 ふとも」。
75	若シ無カラバ二恒ノ心一。 次の漢文の書き下し文として正しい ものを選べ。 ア 若し恒の心無ければ / イ 若し 恒の心無からば / ウ 若し恒の心 無し	イ	「若し…無からば（未然+ば）」は順接仮定。
76	苟クモ務メバレ本ヲ。 ア 順接仮定（もし～ならば） / イ 逆接（たとえ～でも） / ウ 順 接確定（～ので）	ア	「苟くも…務めば（未然+ば）」は順接仮定。

比較選択限定 次の漢文の句法を、後のア～エから選べ。

77	尊ブハレ賢ヲ、莫シレ如クハレ 使フニレ能ヲ。 ア 比較（～に及ばない） / イ 最 上（～が一番） / ウ 選択（どち らが） / エ 限定（ただ～だけ）	イ	「莫如」は最上。書き下し「賢を尊ぶは能を使 ふに如くは莫し」。
78	語ルハレ利ヲ、不レ如カレ語ル ニレ義ヲ。 ア 比較（～に及ばない） / イ 最 上（～が一番） / ウ 選択（どち らが） / エ 限定（ただ～だけ）	ア	「不如」は比較。書き下し「利を語るは義を語 るに如かず」。

79	除クハレ患ヒヲ、莫シレ如クハ 二未然ニ一。 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを選び。 ア 災いを除くのは未然に及ばない ／ イ 災いと未然とどちらがよいか ／ ウ 災いを除くには起こる前が一番だ	ウ	「莫如」は最上。書き下し「患ひを除くは未然に如くは莫し」。
80	唯タダ仁者ノミ愛スレ人ヲ。 ア 比較（～に及ばない）／ イ 最上（～が一番）／ ウ 選択（どちらが）／ エ 限定（ただ～だけ）	エ	「唯…のみ」は限定。書き下し「唯だ仁者のみ人を愛す」。
81	文ルハレ過チヲ、不レ如カレ改ムルニ。 次の漢文の書き下し文として正しいものを選び。 ア 過ちを文るは改むるに如くは莫し ／ イ 過ちを文るは改むるに如かず ／ ウ 過ちと改と孰れか	イ	「不如」は比較。「過ちを飾るより改めるほうがよい」。
82	聴クハレ言ヲ、不レ如カレ観ルニレ行ヒヲ。 次の漢文の書き下し文として正しいものを選び。 ア 言を聴くは行ひを観るに如かず ／ イ 言を聴くは行ひを観るに如くは莫し ／ ウ 言と行と孰れか	ア	「不如」は比較。「言葉を聞くのは行いを見るのに及ばない」。

累加抑揚詠嘆

次の漢文の句法を、後のア～ウから選べ。

83	死スラ且ツ不レ畏レ、況ンヤ其ノ余ヲヤ。 ア 累加（～だけでなく…も）／ イ 抑揚（～すら、まして…）／ ウ 詠嘆（なんと…だなあ）	イ	「すら…況んや…をや」は抑揚。
84	不二唯タダニ有ルノミナラーレオ、亦タ有リレ徳。 ア 累加（～だけでなく…も）／ イ 抑揚（～すら、まして…）／ ウ 詠嘆（なんと…だなあ）	ア	「不唯（唯だに～のみならず）…亦…」は累加。書き下し「唯だに才有るのみならず、亦た徳有り」。
85	大ナル哉カナ、堯ノ君タルヤ。 ア 累加（～だけでなく…も）／ イ 抑揚（～すら、まして…）／ ウ 詠嘆（なんと…だなあ）	ウ	「哉（かな）」は詠嘆。書き下し「大なるかな、堯の君たるや」。
86	庶人スラ尚ホ知ル、況ンヤ君子ヲヤ。 ア 累加（～だけでなく…も）／ イ 抑揚（～すら、まして…）／ ウ 詠嘆（なんと…だなあ）	イ	「すら尚ほ…況んや…をや」は抑揚。

87	不二唯タダニ有ルノミナラーレ 勇、亦タ有リレ謀。 ア 累加（～だけでなく…も） / イ 抑揚（～すら、まして…） / ウ 詠嘆（なんと…だなあ）	ア	「不唯（唯だに～のみならず）…亦…」は累加。書き下し「唯だに勇有るのみならず、亦た謀有り」。
88	久シイ哉カナ、道ノ不レ行ハ レ。 ア 累加（～だけでなく…も） / イ 抑揚（～すら、まして…） / ウ 詠嘆（なんと…だなあ）	ウ	「哉（かな）」は詠嘆。書き下し「久しいかな、道の行はれざるや」。

句形総まとめ 次の漢文の句法の種類を、後のア～エから選べ。

89	安クンゾ能ク為サンレ之ヲ哉 や。 ア 反語（どうして～か、いや～ない） / イ 疑問（～か。問いかけ） / ウ 詠嘆（～かな・豈…ずや） / エ 否定（～ず・～なし）	ア	句法は「反語」。書き下し「安くんぞ能く之を為さんや」。
90	用キルハレ人ヲ莫シレ如クハレ 長ニ。 ア 比較（A は B に及ばない・～より） / イ 限定（ただ～のみ） / ウ 最上（～に如くは無し。～が一番） / エ 選択（いずれか。どちらが～か）	ウ	句法は「最上」。書き下し「人を用ゐるは長に如くは莫し」。
91	求ムルハレ富ヲ、莫シレ如クハ レ知ルニレ足ルヲ。 ア 比較（A は B に及ばない・～より） / イ 最上（～に如くは無し。～が一番） / ウ 限定（ただ～のみ） / エ 選択（いずれか。どちらが～か）	イ	句法は「最上」。書き下し「富を求むるは足るを知るに如くは莫し」。
92	居ルハレ怨ニ、不レ如カレ改 ムルニレ過チヲ。 ア 最上（～に如くは無し。～が一番） / イ 選択（いずれか。どちらが～か） / ウ 限定（ただ～のみ） / エ 比較（A は B に及ばない・～より）	エ	句法は「比較」。書き下し「怨みに居るは過ちを改むるに如かず」。
93	子ハ安クンゾ知ランレ之ヲ哉 や。 ア 反語（どうして～か、いや～ない） / イ 疑問（～か。問いかけ） / ウ 詠嘆（～かな・豈…ずや） / エ 否定（～ず・～なし）	ア	句法は「反語」。書き下し「子は安くんぞ之を知らんや」。
94	守ルト攻ムルト孰レカ勝レ ル。 ア 累加（～だけでなく…も） / イ 抑揚（～すら、まして…） / ウ 詠嘆（なんと…だなあ）	ウ	句法は「選択」。書き下し「守ると攻むると孰れか勝れる」。

ア 疑問（～か。問いかけ） / イ 比較（A は B に及ばない・～より） / ウ 選択（いずれか。どちらが～か） / エ 反語（どうして～か、いや～ない）

故事成語

- 95 「矛盾（むじゅん）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア つじつまが合わないこと / イ 目的を遂げるため、長い間つらい苦勞を耐え忍ぶこと / ウ 失敗すれば後がない、決死の覚悟でのぞむこと / エ 物事を完成させる、最後の大切な仕上げ

ア

「矛盾」はつじつまが合わないこと。

- 96 「蛇足（だそく）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 目先の違いにこだわり、結果が同じだと気づかないこと / イ あっても無駄な、余計な付け足し / ウ 大きな団体の末端より、小さな団体の長になるほうがよいこと / エ 負け惜しみが強く、こじつけて言い逃れること

イ

「蛇足」はあっても無駄な、余計な付け足し。

- 97 「四面楚歌（しめんそか）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 欠点がなく完全なこと。また、無事にやりとげること / イ 一度してしまったことは、取り返しがつかないこと / ウ 周囲がすべて敵で、孤立すること / エ 技巧のあとがなく自然で完全なこと。飾り気がなく純真なこと

ウ

「四面楚歌」は周囲がすべて敵で、孤立すること。

- 98 「助長（じょちょう）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア そこを通れば立身出世できる関門のこと / イ いつまでも進歩のない人のこと / ウ 多少の違いはあっても本質的には同じであること / エ よけいな手助けをして、かえって害すること

エ

「助長」はよけいな手助けをして、かえって害すること。

漢詩のきまり

- 99 春眠不覺曉處處聞啼鳥夜來風雨聲花落知多少

イ

絶句の四句は順に起句・承句・転句・結句と呼ぶ。

絶句の各句（第一～四句）の呼び名を選べ。
ア 首聯・頷聯・頸聯・尾聯 / イ 起句・承句・転句・結句 / ウ 序・破・急

100 春眠不覚曉处处聞啼鳥夜来風雨声花落知多少

次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。
ア 五言絶句（五字×四句） / イ 七言絶句（七字×四句） / ウ 五言律詩（五字×八句） / エ 七言律詩（七字×八句）

ア

一句が五字で四句。よって五言絶句。